

1 インタビュー

高品質かつリーズナブルなサービスを実現する
強靱なICTインフラを構築・運用

NTTコミュニケーションズ（以下、NTT Com）インフラデザイン部は2020年4月の組織再編で設立されたプラットフォームサービス本部に属する組織の1つであり、同社のICTサービスを支える各種インフラの構築や運用保守を担っている。前身のサービス基盤部から組織長を務める渡邊守取締役にお話を伺った。

ICTサービスを支える
各種インフラの構築・運用保守

—まずインフラデザイン部の概要や役割について教えてください。

渡邊 さまざまなサービスの提供に必要なICTインフラの構築・運用保守を担う組織です。特定のサービスやお客さまを担当するものではありませんが、最終的にはお客さまに満足していただける価値の提供につなげることを強く意識しています。そしてICTインフラの整備を通じ社会課題の解決に貢献し続けるため、組織として「オペレーショナル・エクセレンス*」を目指しています。

主な業務はICTインフラの構築・運用保守や伝送設備自体の開発、それに伴うシステム開発です。またサービスの競争力強化やICTインフラの強靱化を目的に中長期的な視点からICTインフラの「グランドデザイン」を策定しています。

—どのようなICTインフラを構築・保守されていますか？

渡邊 全国の通信ビル、通信ビル間、およびお客さま拠点との通信に必要

な伝送設備、通信設備に電力を供給する設備、通信ビル屋上や山の上などに設置されている鉄塔、約2万kmの光ファイバーケーブルなどです。このほかデータセンターや海底ケーブル陸揚げ局との通信に必要な伝送設備の構築・保守も行っています。

—「グランドデザイン」についても少し詳しくお聞かせください。

渡邊 これは中長期まで見据えた設備の設計方針です。現在の競争環境や技術の進展を反映したグランドデザインをいち早く作ることが目標です。「どこが終わり」とは言えない大きな活動であるため、分野や粒度によって区切りを付けながら取り組んでいます。当面は5年先の姿を見据えています。その先については技術や環境がどう変化するかわかりません。「5年では実現できない」という課題は10年先の議論として整理するといったように、短期、中期、長期に分けて考えています。

組織再編により基盤レイヤーの
構築・運用保守を担う機能を集約

—4月の組織再編でどのような変化



NTTコミュニケーションズ株式会社
取締役
プラットフォームサービス本部
インフラデザイン部長
渡邊 守氏

がありましたか？

渡邊 組織再編のコンセプトは「3S (Simple・Smart・Speedy) + S (Secure)」すなわち「他社よりも「シンプル」な仕様で、より「スマート」なサービスやソリューションを、お客さまの求める「スピード感」でさらに「セキュア（安心・安全）」をお届けするというものでした。具体的には伝送設備を担当するチームが加わったことが最も大きな変化です。伝送チームとは再編前から組織を横断し一緒に仕事を進めていましたが、同じ基盤レイヤーの構築・運用保守を担

うメンバーがより近い関係で仕事をする環境が整ったことは非常に良かったと感じています。

高品質なサービスをリーズナブルに提供するためのICTインフラが必要

——最近の事業環境を踏まえた活動方針などお聞かせください。

渡邊 市場競争が激しく事業環境は一層厳しくなっています。競合他社と競争していく

には、高品質なサービスをリーズナブルに提供するためのインフラが必要です。効率の良い最新設備が不可欠ですが、従来の装置から切り替えていくことは容易ではありません。通信は24時間365日止められないというお客さまが多いことや、以前できたことが最新の装置ではできないといったケースもあるためです。お客さまとの調整はもちろん、できる限り汎用品を使い必要に応じてカスタマイズするといった、コストと機能のバランスを重視しながら取り組みを進めています。

重点施策：3つの「R」

——今年最も注力されている取り組みはどのようなものですか？

渡邊 3S+Sを行動の軸として3つの「R」に注力しています。1つは「競争力強化に向けた次世代基盤の実現」を目指す「Reborn」です。効率や信頼性を高めつつ競争力を強化するためのグランドデザイン策定と、それに基づく基盤整備を進めます。その1つが最新鋭の光ファイバーを用いた400Gbps伝送基盤です。海底ケー

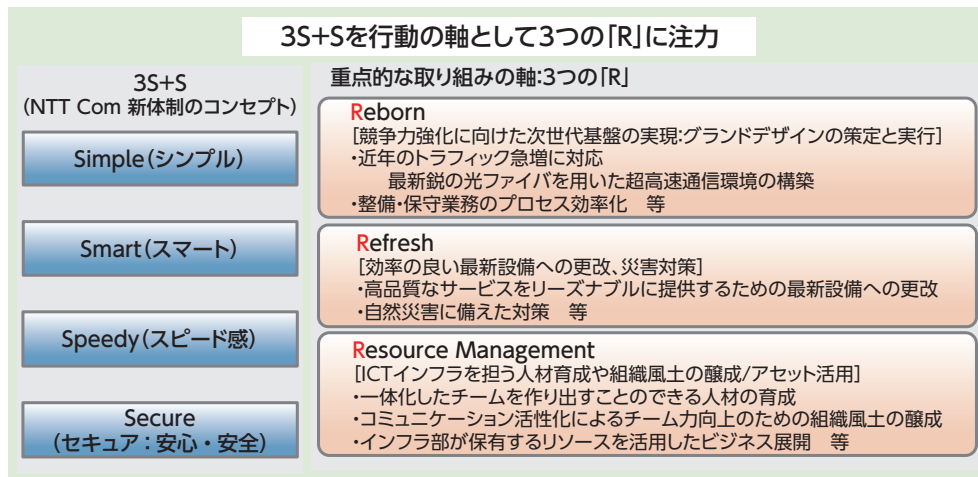


図1 インフラ部の2020年度の重点的な取り組み

ブルや近距離通信を除き、国内の中継伝送で400Gbpsを実現しているケースは世界的にも珍しいと言えます。2つめは「効率の良い最新設備への更改や災害への対策」を行う「Refresh」。3つめは「インフラチームの持つリソースの最大化」を目指す「Resource Management」です。人材育成やアセットの有効活用に取り組んでいます。

本特集で具体的な取り組みについていくつか紹介します。

災害対策やアセット活用、人材育成を強化していく

——今後に向けた抱負などお聞かせください。

渡邊 「災害に対して強靱で壊れない設備にしておかなければ」ということを強く意識しています。強靱さだけを追求するなら全てのケーブルをとう道に収容する、または多数の迂回ルートを確保するといった対策を進めれば良いのですが、コストがかかります。いかにリーズナブルに強靱さを実現するかが課題です。この点はグランドデザイン策定においても重要な要素の1つです。

またビルの空きスペースを貸すようなアセットの有効活用に取り組んでいるのですが、これまでなかなか難しかった鉄塔の活用を進めたいと考えています。使わなくなった鉄塔を撤去することも当然選択肢の1つですが、現在新しい取り組みを進めています。この取り組みも本特集で別途紹介します。

もう1つ力を入れたいのが人材育成です。光ファイバー敷設のような業務はクリエイティブな要素が薄いためか人気がなく、若手が少ないことが課題です。将来、陸上/海底ケーブル敷設や伝送装置整備などの業務をリーダーとして担っていただける人材を育てるため、前述の400Gbps伝送基盤を構築する現場に関連組織の若手メンバーを一定期間配置するなどのOJTを進めています。今後は海底ケーブル敷設船に乗るエンジニアのOJTも進めつつ、効果的な教育プランを整備していきたいと考えています。

——本日はありがとうございました。

※プロセスを磨き続け競争上の優位を持つまでオペレーションカを高めることにより、オペレーション面からパートナーとして継続的に選んでいただける状態。